

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

山形県鶴岡市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

鶴岡市 SDGs 未来都市計画
森・食・農の文化と先端生命科学が共生する“いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡”

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

鶴岡市SDGs未来都市計画 森・食・農の文化と先端生命科学が共生する“いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡”

(2) 2030年のあるべき姿

森・食・農・先端生命科学の「いのち」を素材とした地域資源が、Society5.0 や未来技術等を介して産業経済の自律的好循環を生む。市民が幸せと思える豊かさを追求し、暮らしやすさを実感できる“いのち輝く創造と伝統のまち”を目指す。

- ① LOCAL-HUB 高い生産性と自立・循環的な経済を有する都市拠点
- ② Well-being Community 市民が将来にわたって健康で安心し生きがいの持てる豊かな地域
- ③ Regional-CES 豊かな森里川海の活用、資源循環型社会の形成

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	農業産出額【2.3】	2016年 307 億円	2020年 326 億円	2028年 400 億円	20%
2	観光入込客数【8.9】	2017年 3月末 631 万人	2020年 601 万人	2028年 790 万人	-19%
3	高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を本市に置くベンチャー企業（従業員4名以上）の数（累計）【9.4、9.5】	2018年 3月 5 社	2020年 5 社	2028年 9 社	0%
4	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合【4.1】 ・自己肯定感を感じている子ども	2017年 78 %	2020年 コロナ禍により調査未実施	2028年 84 %	0%
5	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合【4.1】 ・他者との協働や共生について考えている子ども	2017年 43 %	2020年 コロナ禍により調査未実施	2028年 57 %	0%
6	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合【4.1】 ・学んだことを日常に生かそうとする子ども	2017年 82 %	2020年 コロナ禍により調査未実施	2028年 87 %	0%
7	子育てのしやすさに対する満足度「子育てしやすい」と思う保護者の割合【3.2、4.2】	2019年 27.6 %	2020年 27.6 %	2028年 50.8 %	0%
8	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合【2.1、4.7】 ・小学生	2013年 ~2014年 75.2 %	2013年 ~2014年 75.2 %	2028年 80.2 %	0%
9	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合【2.1、4.7】 ・中学生	2013年 ~2014年 55.3 %	2013年 ~2014年 55.3 %	2028年 64.2 %	0%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度 （%）
10	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・胃がん検診受診率	2017年	32.7 %	2020年	31.8 %	2028年	36.6 %	-23%
11	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・大腸がん検診受診率	2017年	38.9 %	2020年	39.0 %	2028年	41.2 %	4%
12	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・肺がん検診受診率	2017年	41.1 %	2020年	40.9 %	2028年	43.9 %	-7%
13	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・乳がん検診受診率	2017年	23.7 %	2020年	22.4 %	2028年	24.7 %	-130%
14	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・子宮がん検診受診率	2017年	32.6 %	2020年	31.4 %	2028年	35.0 %	-50%
15	エネルギー自給率【7.2、7.3】	2019年 3月	29.5 %	2020年	29.5 %	2028年	34.0 %	0%
16	温室効果ガスの削減（2015年の 温室効果ガス排出量を基準とした 削減率）【13.1、13.2】	2017年 3月※（）は 2018年度統計改定後 の算定方法値	983.9 kt-co2 (1073.2)	2020年 ※2018年度統 計改定後の算定 方法値	1042.8 kt-co2	2028年 ※（）は2018年度統 計改定後の算定方法値	755.7 kt-co2 (863.1)	14%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

上記、(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況のNo.2観光入込客数【8.9】については、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、首都圏等に発出された緊急事態宣言や県境を越える往來の自粛により、市内の主要観光地等の入込客数が減少し、現状値が当初値を下回った。ポストコロナの観光振興に向けて、リモートワークやワーケーション・マイクロツーリズム等の新たな旅のスタイルを促進するとともに、教育旅行等の誘致を行う。また、No.4～6 児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合【4.1】については、新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施となった。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績	2022年 目標値	達成度 (%)
1	高等教育研究機関、ベンチャー等の集積を生かした自律的好循環による産業経済の発展に向けた取組	高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を本市に置くベンチャー企業（従業員4名以上）の数（累計）	2018年3月 5社			2020年 5社	2022年 6社	0%
2	豊かな森里川海の資源を生かした観光・食・農林漁業のブランド化と活性化に向けた取組	観光入込客数	2017年3月末 631万人			2020年 601万人	2022年 760万人	-23%
3	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・胃がん検診受診率	2017年 32.7%			2020年 31.8%	2022年 34.0%	-69%
4	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・大腸がん検診受診率	2017年 38.9%			2020年 39.0%	2022年 40.3%	7%
5	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・肺がん検診受診率	2017年 41.1%			2020年 40.9%	2022年 42.8%	-12%
6	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・乳がん検診受診率	2017年 23.7%			2020年 22.4%	2022年 24.3%	-217%
7	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・子宮がん検診受診率	2017年 32.6%			2020年 31.4%	2022年 34.0%	-86%
8	鶴岡型ESDの構築とユネスコ創造都市ネットワークの活用に向けた取組	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合 ・小学生	2013年～2014年 75.2%			2013年～2014年 75.2%	2022年 77.0%	0%
9	鶴岡型ESDの構築とユネスコ創造都市ネットワークの活用に向けた取組	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合 ・中学生	2013年～2014年 55.3%			2013年～2014年 55.3%	2022年 58.0%	0%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
10	歴史と伝統を学びながら新たな時代にも対応する学校教育の推進に向けた取組	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合 ・自己肯定感を感じている子ども	2017年 78 %			2020年 コロナ禍により調査未実施	2022年 80 %	0%
11	歴史と伝統を学びながら新たな時代にも対応する学校教育の推進に向けた取組	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合 ・他者との協働や共生について考えている子ども	2017年 43 %			2020年 コロナ禍により調査未実施	2022年 55 %	0%
12	歴史と伝統を学びながら新たな時代にも対応する学校教育の推進に向けた取組	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合 ・学んだことを日常に生かそうとする子ども	2017年 82 %			2020年 コロナ禍により調査未実施	2022年 83 %	0%
13	子どもを産み育てやすい環境の充実に向けた取組	子育てのしやすさに対する満足度「子育てしやすい」と思う保護者の割合	2019年 27.6 %			2020年 27.6 %	2022年 34.8 %	0%
14	再生可能エネルギーなどの活用による市民・企業の低炭素化に向けた取組の展開	エネルギー自給率	2018年3月 29.4 %			2020年 29.5 %	2022年 31.7 %	4%
15	豊かな地域資源の保全・活性化による災害にも強い地域循環共生圏の構築に向けた取組	温室効果ガスの削減（2015年の温室効果ガス排出量を基準とした削減量）	2017年3月 983.9 kt-co2 ※ () は2018年度統計改定後の算定方法値			2020年 1,042.8 kt-co2 ※2018年度統計改定後の算定方法値	2022年 866.7 kt-co2 ※ () は2018年度統計改定後の算定方法値	22%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

SDGsの「宣言」、「登録」制度として、SDGsの推進に取り組む地域の企業、NPO、団体、教育機関を「つるおかSDGs推進パートナー」として登録することを進めている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

経済面（LOCAL-HUB）では、No.1高等教育研究機関、ベンチャー等の集積を生かした自律的好循環による産業経済の発展に向けた取組に関連して、鶴岡サイエンスパーク内で研究開発や企業活動に携わる人は、令和2年度末までの累計で560人を超え、平成30年に比べると約75人増加した。さらに、ベンチャー企業で働く人の半数以上が40歳未満で地元（庄内）出身者が4割以上となっている。

社会面（Well-being Community）では、No.3～7のがん検診受診率で新型コロナウイルス感染症の影響で「がん検診」等の受診控えが生じたことや人間ドックが中止になったところがあったことが影響し受診率が当初値から減少したものがあつたものの、デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組に関連して、市立庄内病院と国立がん研究センター東病院との医療連携協定に基づき、庄内病院内に「がん相談外来」を開設。併せて遠隔診療の導入について検討した。また、小学校26校、中学校11校の生徒約9,000人及び教員約800人に対し、1人1台タブレット端末の運用を開始。GIGAスクール構想を推進した。

環境面（Regional-CES）では、No.14再生可能エネルギーなどの活用による市民・企業の低炭素化に向けた取組の展開及びNo.15豊かな地域資源の保全・活性化による災害にも強い地域循環共生圏の構築に向けた取組に関連して、令和2年度に新しいごみ焼却施設が完成。ごみ焼却により発生する熱を利用して発電（年間発電量20,000メガワット。その6割がバイオマス由来の再生可能エネルギー）を行い、施設内での電力利用に加え、小中学校など市内の公共施設に供給する「電力の地産地消」に取り組むこととした。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

（4）有識者からの取組に対する評価

- ・県外の様々な組織と連携して市としての付加価値を高める取組は素晴らしいと思われる。入居されたベンチャー企業等と地元企業との連携をさらに促進し、地域全体の魅力アップをさらに進めることを期待する。
- ・ベンチャーの数は増えていないが、従業員数はかなり増えているということになるのか、説明が望まれる。